



Japan
Display
Inc.
Group

2015年度 第1四半期 決算説明会

2015年8月7日

株式会社 ジャパンディスプレイ

- 1. 2015年度第1四半期実績及び第2四半期ガイダンス**
- 2. 市場動向及びJDIの施策**
- 3. 新経営体制における改革方針**

【ご注意】

- 本資料に記載の減価償却費は、のれん償却費及び営業外減価償却費を含みます。
- 本資料に記載の研究開発費は、売上原価及び販売管理費に含まれる金額の合計です。

2015年度第1四半期実績及び 第2四半期ガイダンス

執行役員 CFO
吉田 恵一

2015年度 第1四半期 サマリー

- 売上高、営業利益ともに、ほぼ5月13日の予想値どおりに着地
- 売上高は大口顧客及び中国顧客向け販売が大幅に増加し、前年同期比97%増の2,461億円となった
- 営業利益は、固定費の増加及び価格低下等の収益圧迫要因があったものの、販売数量の大幅増加等により、前年同期比149億円改善の22億円となった
- 市場ではFull-HDを含むスマホ向けディスプレイの市場価格低下が見られるが、当社では、高付加価値製品比率の拡大等によりその影響は比較的軽微であった

(億円)

	売上高	営業利益	減価償却費	研究開発費	為替レート (円/US\$)
1Q-FY15 (実)	2,461	22	203	61	121.4
1Q-FY15 (予)	2,400	20	212	68	115.0
1Q-FY14 (実)	1,252	-127	171	35	102.2

2015年度 第1四半期 連結業績

(十億円)

	Q1-FY15	Q1-FY14	YoY増減	Q4-FY14	QoQ増減
売上高	246.1	125.2	+120.9	232.6	+13.5
売上原価	228.3	126.0	+102.3	207.5	+20.8
売上総利益	17.9	▲ 0.9	+18.8	25.1	▲7.2
	7.3%	-0.7%		10.8%	
販売費及び一般管理費	15.6	11.8	+3.8	14.4	+1.2
営業利益	2.2	▲ 12.7	+14.9	10.7	▲8.5
	0.9%	-10.1%		4.6%	
営業外損益	▲ 2.4	▲ 4.2	+1.8	▲ 4.7	+2.3
経常利益	▲ 0.1	▲ 16.9	+16.8	6.0	▲6.1
	0.0%	-13.5%		2.6%	
特別損益	0.0	0.0	+0.0	▲ 9.1	+9.1
親会社株主に帰属する 当期純損益	▲ 0.5	▲ 16.8	+16.3	▲ 3.6	+3.1
	-0.2%	-13.4%		-1.6%	
EBITDA	22.5	4.3	+18.2	29.5	▲7.0
	9.1%	3.5%		12.7%	
減価償却費	20.3	17.1	+3.2	18.9	+1.4
研究開発費	6.1	3.5	+2.6	5.2	+0.9
平均為替レート (円/米ドル)	121.4	102.2		119.2	
モバイル分野売上高比率	85.3%	72.2%		82.8%	

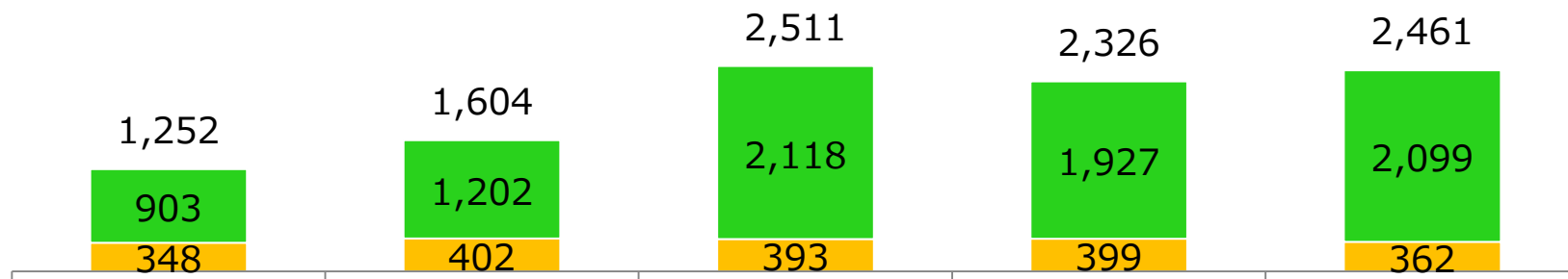
四半期業績推移

四半期別業績推移

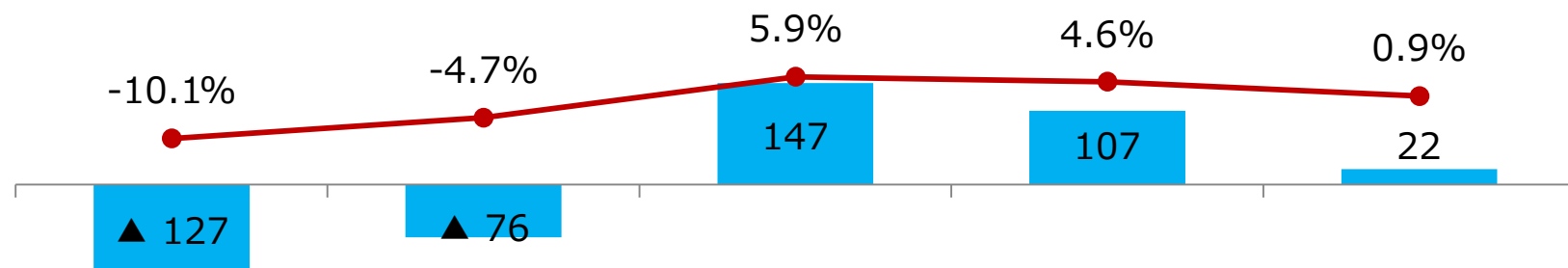
(億円)

■ モバイル ■ 車載・C&I・その他

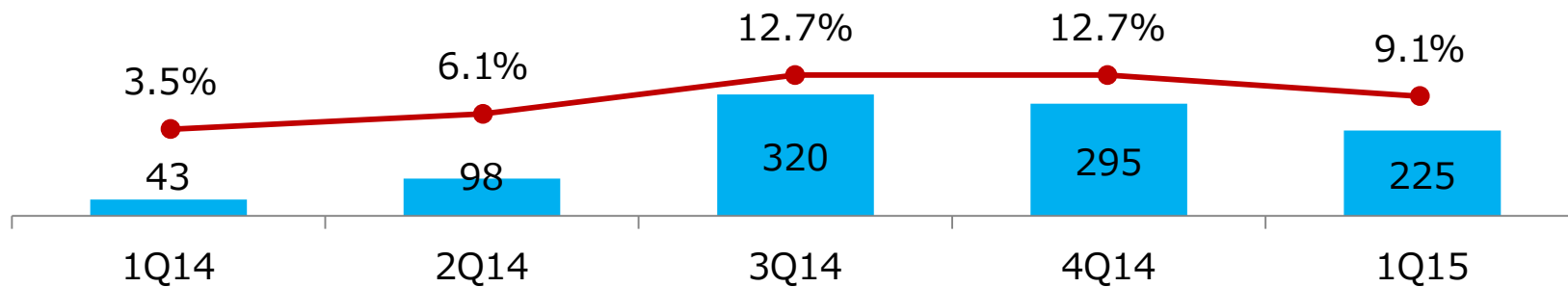
売上高



営業利益



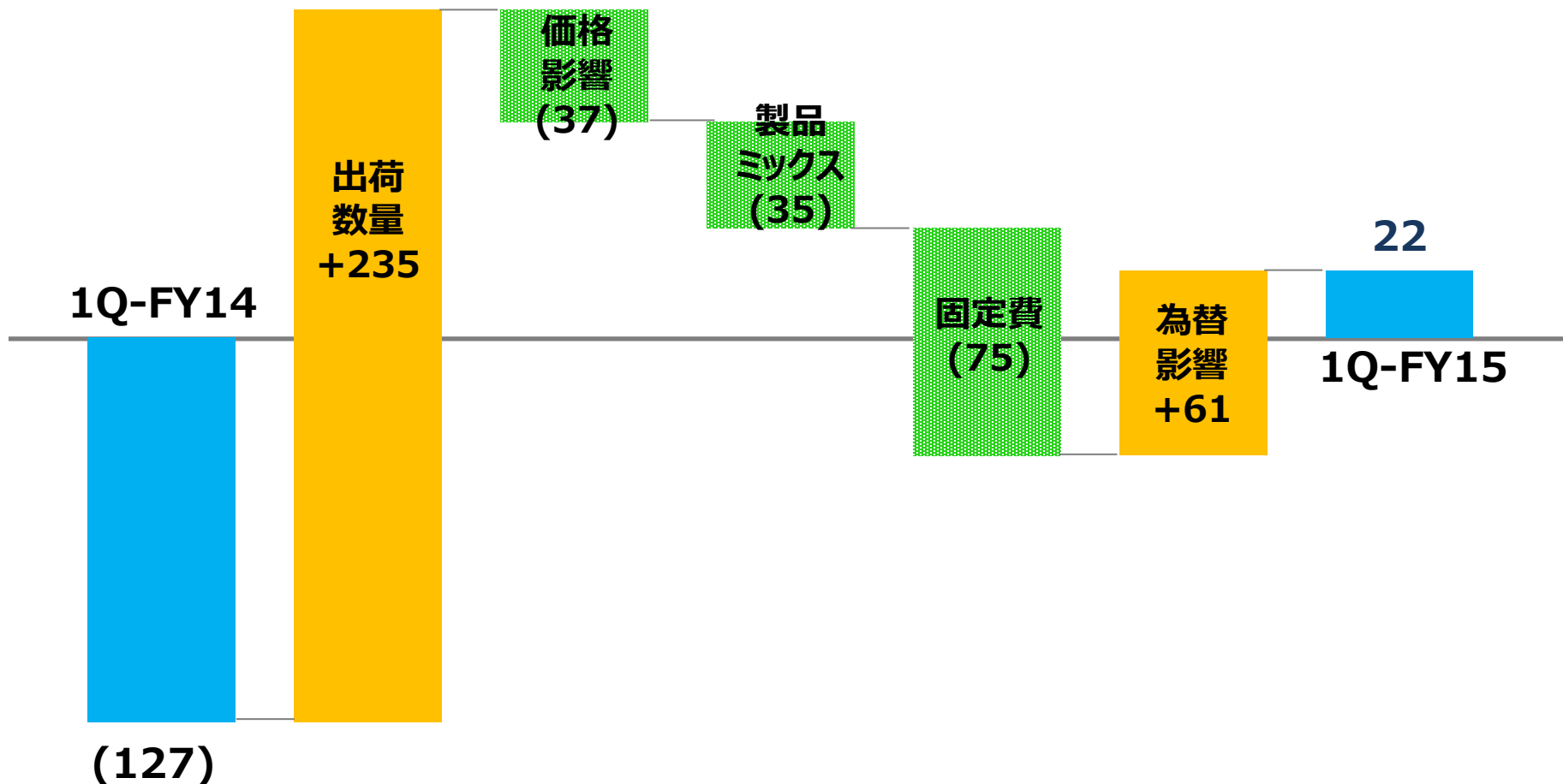
EBITDA



第1四半期 営業利益増減要因分析

営業利益増減分析(前年同期比)

(億円)



連結貸借対照表

(十億円)

	6/2015	3/2015	6/2014
現金及び預金	66.4	94.6	91.2
売掛金	163.1	144.1	97.7
未収入金	69.4	62.8	21.9
在庫	117.0	113.4	99.9
流動資産合計	440.4	436.7	339.4
有形固定資産合計	357.5	348.9	354.9
資産合計	843.8	831.6	731.0
買掛金	216.7	197.1	100.3
有利子負債	74.5	83.5	91.2
前受金	72.7	65.3	61.6
負債合計	439.8	429.0	344.5
純資産合計	404.0	402.6	386.5
自己資本比率	47.7%	48.2%	52.7%
ネット有利子負債	8.1	-11.1	0.0
商品及び製品	13	12	23
仕掛品	19	21	34
原材料及び貯蔵品	10	11	14
在庫保有日数 (日)	43	44	72

連結キャッシュフロー計算書

(十億円)

	1Q-FY15	1Q-FY14
税引前当期純利益	▲ 0.1	▲ 16.9
減価償却費	20.3	17.1
運転資金※ 1	▲ 7.0	▲ 10.6
前受金	7.4	▲ 5.2
営業キャッシュフロー	10.3	▲ 13.3
固定資産の取得による支出	▲ 32.5	▲ 23.6
投資キャッシュフロー	▲ 30.7	▲ 22.9
財務キャッシュフロー	▲ 8.9	▲ 13.5
現金及び現金同等物に係る換算差額	1.1	▲ 0.4
期初現預金残高	94.6	141.4
現預金の増減額	▲ 28.2	▲ 50.2
期末現預金残高	66.4	91.2
フリーキャッシュフロー ※ 2	▲ 20.4	▲ 36.2

※1 運転資金 = 売上債権 + たな卸資産 + 仕入債務 + 未収入金

※2 フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

2Q-FY2015 業績予想

2Q-FY15
予想

- 売上高： 大口顧客向け製品の新製品への切り替えに伴う出荷減により、出荷数量は前四半期比減少見込みも、販売単価の見直しにより、前四半期比増加の見通し
- 営業利益： 上記販売単価の見直し等により、前四半期比58億円増加の80億円となる見込み（前年同期比+156億円）
- リスク： 部品調達の遅れ等による新製品の出荷遅れ

(億円)

	売上高	営業利益	減価償却費	研究開発費	為替レート (円/US\$)
2Q-FY15 (予)	2,600	80	218	64	120.0
1Q-FY15 (実)	2,461	22	203	61	121.4
2Q-FY14 (実)	1,604	-76	175	40	103.8

※為替変動による利益インパクトは軽微

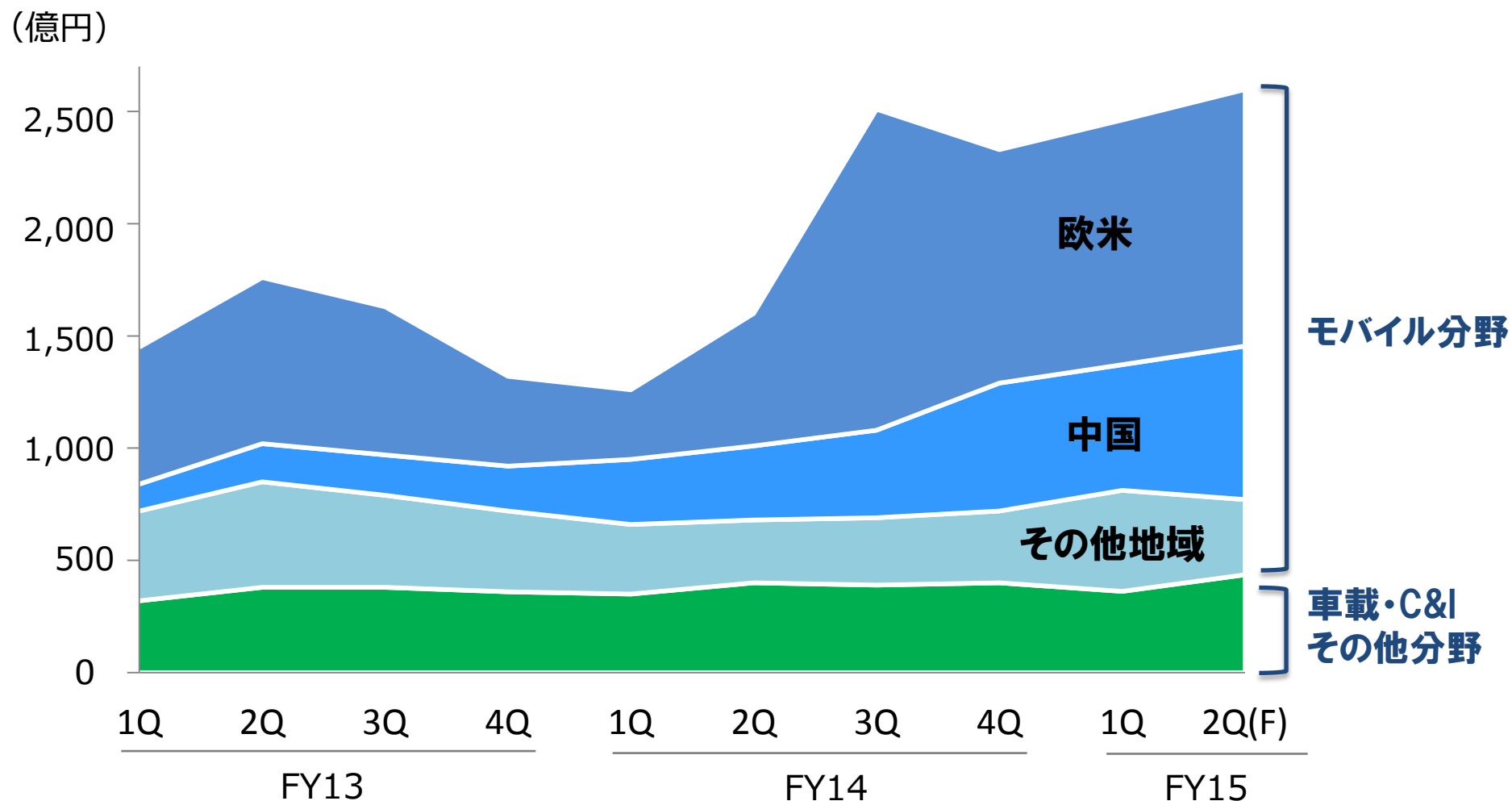
FY15
費用等
見込み

- 減価償却費： 850億円（前年度比 +141億円）
- 研究開発費： 260億円（ " +100億円）
- 設備投資額： 2,100億円（受取金での充当分を含む）

市場動向及びJDIの施策

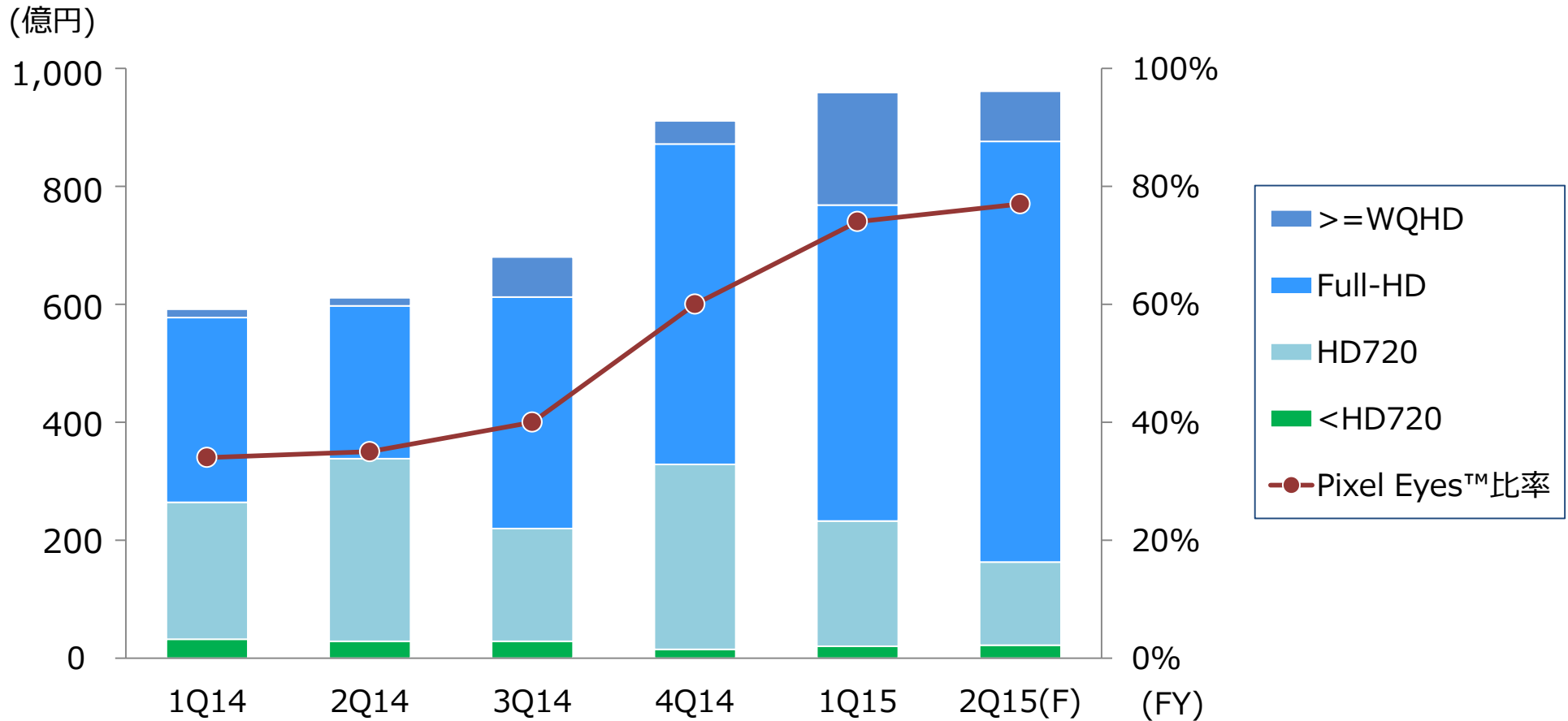
代表取締役社長 兼 COO
有賀 修二

製品分野及び顧客地域別四半期売上高推移



- 2Q-FY15の売上高見込み（前四半期比）：
欧米向け一新製品立ち上げにより横ばい、中国向け一拡大、その他地域(モバイル)一減少

中国・アジア顧客向けスマートフォンディスプレイ売上高推移



- 1Q15はWQHD製品の出荷が増加するも、2Qは減少見込み。一方、FHDは引き続き増加し、FHD以上の高精細比率は拡大へ
- Pixel Eyes™比率 -- 1Q15：予想通り70%超、2Q15：80%弱の見込み

解像度・顧客地域別 売上高・需要状況

		1Q15 売上高実績		2Q15 売上	3Q15 需要
		対想定	QoQ 対実績	QoQ 見込み	QoQ 見込み
WQHD	中国・アジア				
Full-HD					
	最大顧客				
HD720	中国・アジア				
Pixel Eyes™					

市場動向及び当社の施策

市場動向

- 中国のスマートフォン需要に減速感
- スマホメーカーの市場シェアに大きな動きが出てきている
- 競合他社のインセル製品販売拡大、台湾・中国のLTPSライン立ち上げにより、今後の競争激化を予想
- 中国の株式市場の変調が中国の消費者市場に与える影響は要注視

JDIの 対策と 目標

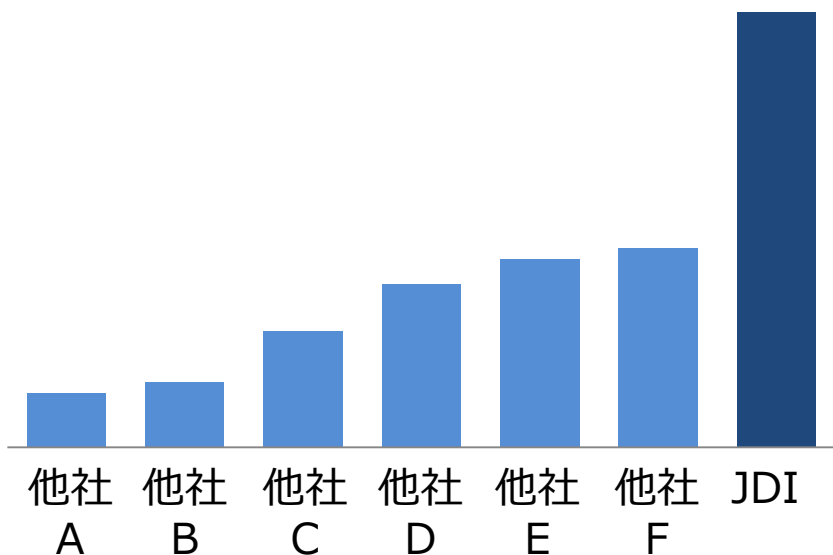
- 新経営体制における改革断行により競争力強化を図り、利益の最大化を実現する
- 第2世代Pixel Eyes™の早期投入、コスト低減の早期実現により、市場価格の下落に追随せず、影響を受けにくい体制を固める
- 足もとの固定費増は将来収益のための投資。早期回収を目指す

世界最大のCMOS-LTPS 生産能力

LTPS-LCDキャパシティ、FY16末

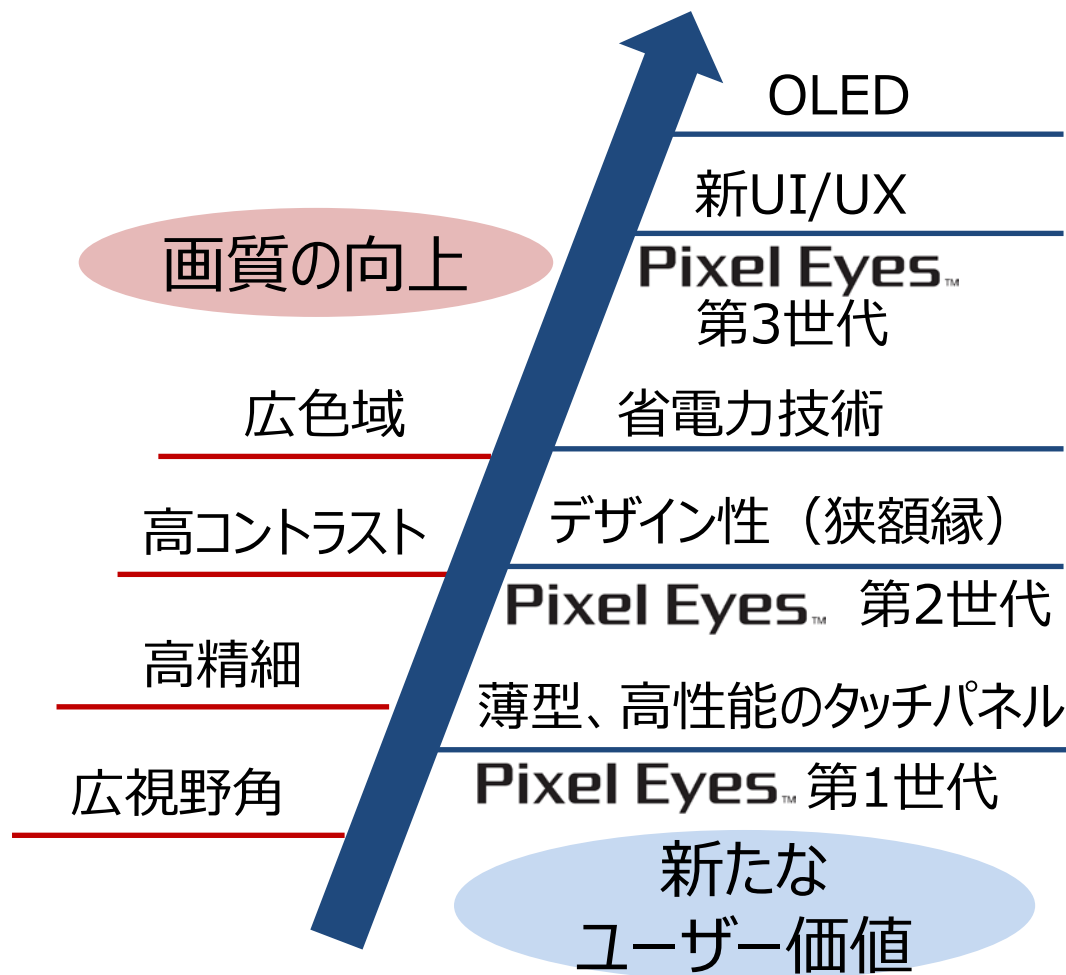
(千シート/月, G4.5換算)

470



出所：調査会社資料を参考にJDI推定

ユーザー価値向上のための新技術 を早期に市場投入

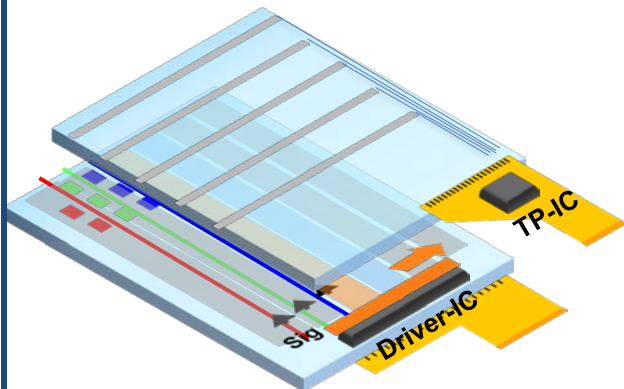


新製品の市場展開

第2世代Pixel Eyes™, 曲面ディスプレイ, 反射型ディスプレイ等
新規技術を盛り込んだ新しい価値の製品を早期に市場へ展開していく

Pixel Eyes™

スマートフォン向け
第2世代



- ✓ 狭額縁
- ✓ Real Black
- ✓ Water Tracking
- ✓ 高精細スタイラス

車載向け
曲面ディスプレイ



- ✓ 曲面ディスプレイに適した
Pixel Eyes™の採用

画素メモリ内蔵
反射型ディスプレイ

デジタル
サイネージ 電子棚札



- ✓ 超低消費電力
- ✓ カラー表示

新経営体制における改革方針

代表取締役会長 兼 CEO
本間 充

代表取締役会長 兼 CEO 本間 充

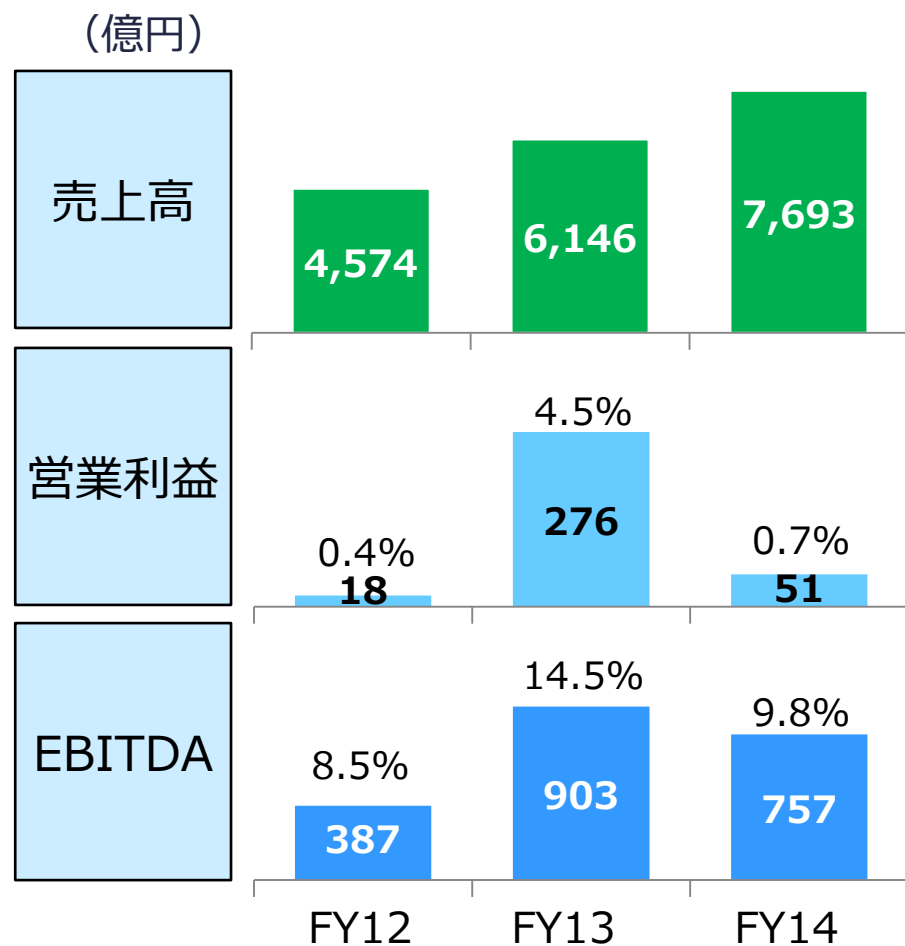
- 企業価値の向上を実現するための経営全般の基盤作りをリードする
- 経験と人脈を活かし、主要顧客との関係強化及び、新たな顧客基盤を獲得する

代表取締役社長 兼 COO 有賀 修二

- オペレーション全般の責任を担う
- 液晶ディスプレイ業界における経験を活かし、製品開発・生産における競争力を確実なものとする

JDI 第1フェーズ（発足～これまで）における課題

JDI発足以降、生産能力と新技術に3,000億円規模の設備投資を行い、売上高は1.7倍になったものの、収益力が伴っていない



- ✓ オペレーション上の様々なロス
- ✓ キャッシュフローに改善余地
- ✓ 自主経営意識の低さ

市場、顧客、競合、自社に関する現状認識

LTPS市場で優位性を確立したが、安閑とはしてられない
事業の競争力強化、無理・無駄の徹底的な排斥が必須

Customer

- ・顧客の市場シェアに大きな動き
- ・中国スマートフォン市場が飽和フェーズに
 - ・解像度、サイズ志向から
デザイン、低消費電力志向へ

Competitor

- ・インセル製品量産開始/開発中
- ・中国顧客へのOLED販売拡大
- ・FY16から新規G6ライン稼働開始

Company

- ・世界最大のLTPS-LCD生産能力
 - ・インセル製品販売拡大
- ・第1フェーズのオペレーション課題

ユーザー価値
向上のための
技術開発

損益分岐点引き下げ

原価低減
ロスコスト削減
中国オペレーション改革

キャッシュフロー健全化

リードタイム短縮
在庫削減
売掛債権回収の短期化

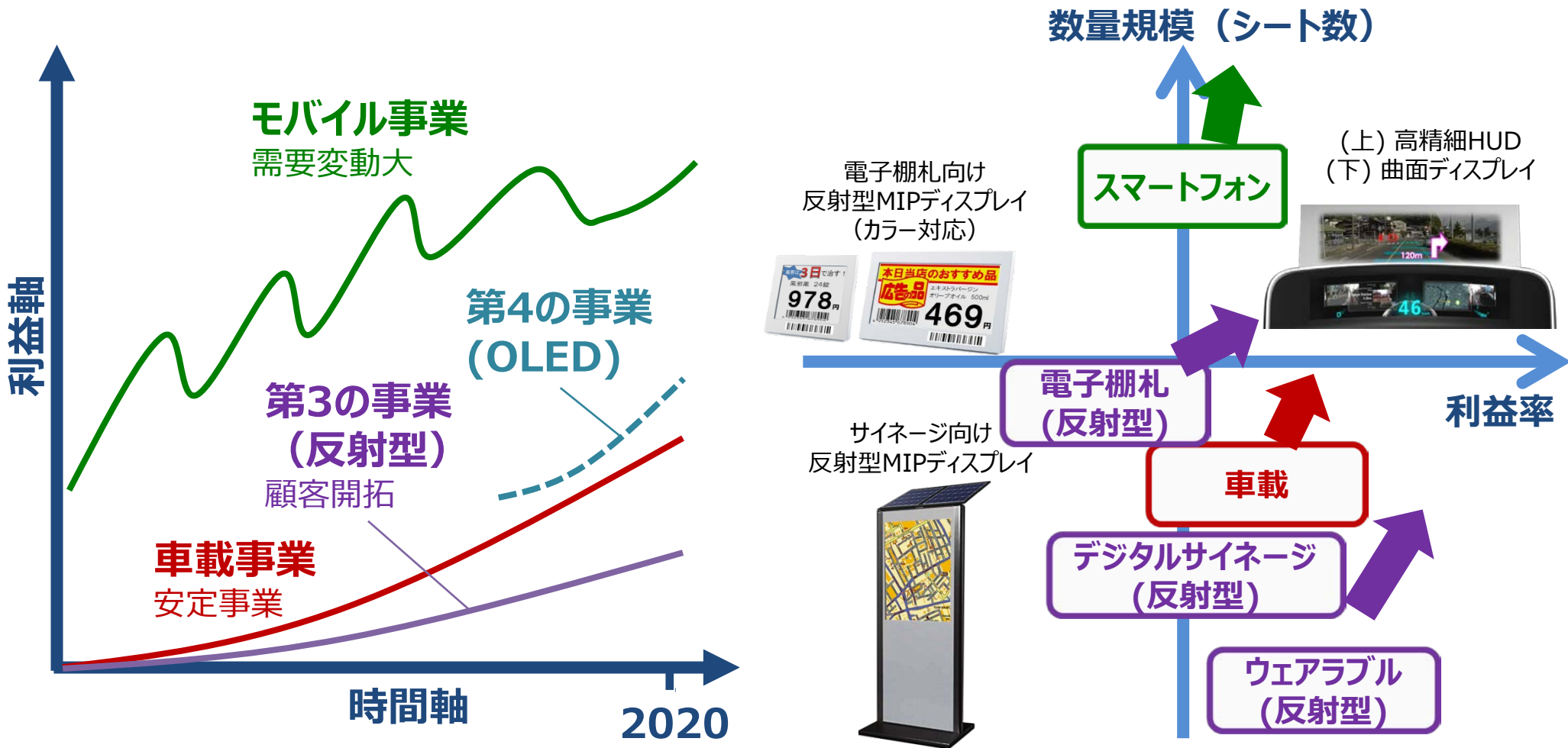
意識改革

責任所在の明確化
計画遵守の執念
無理・無駄の排斥
危機意識の醸成
CRM

世界最大の
LTPS-LCD
生産能力

3本の事業の柱を構築 – 安定した経営基盤の確立へ

モバイル事業は成熟期へ。車載事業を成長させると共に、新しい3本目の事業を育てていく。ノンモバイルの売上高比率30%へ





改革とスピード

会社全体で課題を共有し、
売上高のみならず、収益を重視し、
改革を断行します。

全てのステークホルダーの期待に応えるためにも、
スピードを上げ、企業価値を向上させます。



将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。